

5 追加機能の説明と使用方法

・SAM アクセス速度の向上について

SAM カードと通信する際の最大ブロックサイズを変更することにより、SAMExchangeData 関数での通信速度が向上する場合があります。本パッチでは、最大ブロックサイズを変更する機能を追加しております。SAMPowerUpCard 関数により SAM カードの電源を ON した後、SAMNegotiate 関数を実行すると、SAM カードに対し IFS request が実施され、最大ブロックサイズを変更することができます。

※最大ブロックサイズのデフォルトは 32 バイトとなります。

[SAMNegotiate 関数の使用方法]

SAMNegotiate 関数には、dwSlotNumber(DWORD), byPPS0(BYTE), byPPS1(BYTE), dwReserved(DWORD)の 4 つの引数を指定できます。従来、“dwReserved”には 0 を指定することになっていましたが、この引数に 1 以上の値を指定することで、最大ブロックサイズを変更することができます。下記のフォーマットに従って、値を指定してください。

dwReserved の書式

Bit	31- 8	7- 0
	Reserved	IFSD(最大ブロックサイズ)を指定

※ IFSD の詳細については、ISO7816-3 または、JISX6320-3 を参照してください。

※ dwReserved=0 の場合、IFS request は実施しません。

例 1) PPS(Protocol and parameters selection)は実施せずに、IFS request のみ
実施する場合

```
SAMNegotiate(1, 0, 0, 0xFE);
```

例 2) PPS と IFS request の両方を実施する場合

```
SAMNegotiate(1, 1, 0x96, 0xFE);
```

6 注意事項

特になし。

7 制約事項

特になし。